

富山市総合計画審議会第5回潤い部会 概要

場所：富山市役所議会棟8階 第4委員会室

日時：平成18年10月26日(木)

10:00 ~ 11:56

1 開会

2 部会長あいさつ

中村部会長あいさつ

本日は、9月市議会での基本構想の決定を受けて、前期基本計画の各論の内容について審議するので委員各位の活発な意見をいただきたい。

3 議事

- ・総合計画前期基本計画(案)について

<概要>

(部会長) 事務局から基本計画(案)についての説明をお願いしたい。

(事務局) 前期基本計画(案)について説明

(部会長) 潤い部会には4つの政策があり、本日は、それぞれの施策に記述してある「現状と課題」、「目標とする指標」、「施策の方向」、「市民に期待する役割」の内容が妥当かどうかについて議論したい。

最初に全体の構成について意見を伺いたい。

指標が設定してある施策と無い施策があるが、選んだ基準はあるのか。

(事務局) 全ての施策で指標を設定したかったが、施策の内容によっては指標として数値化することが困難なものがあつた。

(部会長) 先日の全体会では、10年先の数値目標を設定すべきとの意見があつたが対応はするのか。

(事務局) 設定できるものもあり、その取扱いについて、検討するが、全ての指標について10年後の目標を数値化するのは困難と考えている。

(委員) 現状と課題の記載内容に連動するよう指標を設定してほしい。

具体的には、144頁の現状を示すデータでは中心部の人口が減っていることを示しているが、指標の「都心地区」との関連が不明である。また、経

年変化を捉えて5年後の目標を示すよう指標を設定しないと説得力に乏しい。

(事務局) ご指摘の箇所については、123頁の都心地区の人口の推移のグラフを、144頁に移動することで対応する。

(部会長) 指標全般に言えることだが、なぜこの指標を選んだのか、この指標は施策の実現のために何故必要かなどの説明が必要でないか。

(事務局) 指標の説明内容については今後検討したい。

(部会長) 続いて、政策ごとに区切って議論したい。
政策1 都市と自然が共生する賑わいとゆとりのまちづくり について意見を伺いたい。

(委員) 122頁の現状を示す中心商店街の歩行者通行量調査結果について、調査地点を明示するなど、もう少し詳細な内容で現状を表現すべきである。

(委員) 122頁の中心商店街とはどこをさすのか、124頁の中心商店街との関連が不明である。

(事務局) 現状を示す表などについては、調査地点数、調査時期などの詳細な内容を追記する方向で検討する。

(委員) 125頁の市民に期待する役割の「まちなかにふさわしい良好な景観創出に努める。」は市民だけではなく事業者に対しても求めているのか。
景観面で問題となっている高層マンションなどへの対応も考えているのか。

(事務局) 景観に関して、市では条例で、景観づくりに取り組む主体として、市民、事業者、行政の責務について記載している。
マンション問題については、紛争調停委員会で数件扱っているところだが、今後は高さ規制検討委員会で検討していくこととしている。

(委員) 市民に期待する役割とは、何を対象として記載しているのか。

(事務局) 市民以外に企業やNPOも含めて広い意味で記載している。

(委員) 市民に期待する役割の表現について、125頁の2番目は「商店街は良好な景観の創出に努め、市民は景観を保全する責務を果たす。」というように具体的に記述できないか。
また、全体的に「参加する。」という表現をもう少し市民のかかわりを意識

した「参画する。」という表現にできないか。

129頁の「地域の交流施設を利用する。」については、単に利用するだけでなく「大切に保存し、活用する。」という表現のほうが市民も責任をもって行政とともに施策を進める意識が表れるのではないか。

同頁の「地域を知り、大切にする。」だけではなく、「地域のよさを教える。」という行動に結びつく表現が必要でないか。

130頁の表現については、「事業者は環境に関する法の遵守に努め、市民は自分の身近での美化に努める」という積極的な内容が必要ではないか。

133頁では、「高齢者や障害者など様々な人々の居住について理解しよう。」など相互扶助の精神の記載がほしい。

(部会長) 市民の役割を「参加」ではなく「参画」と考えることは重要な意味があるので、できるところは「参画」にすべきと考える。

指標について、施策の効果を全般的に表しているものと、ピンポイントで表しているものがある。例えば129頁の「温泉施設利用客数」は施策の内容のごく一部であり、施策の内容に合う指標を設定できないか。

続いて、政策2「海・川・森・山」水と緑が映える潤いと安らぎのまちづくりについて議論したい。

(委員) 市民に期待する役割について、138頁の表現はいいが、140頁の表現については中山間地域で暮らす人の役割が見えない。例えば、中山間地域で暮らす人の交流活動に触れるような表現はできないか。

(委員) 140頁は文章が多く、市の中で、中山間地域がどこなのか一目でわかるような図を入れることはできないか。

(委員) 140頁の現況と課題に記述のある集落機能とはどのような機能と考えているのか。

(事務局) コミュニティや地域の連帯感、農業生産における協力関係などの集落を支えている機能と考えている。

(委員) 中山間地域の集落機能について、都市部への人の流れが加速しているように感じるため、公共施設の少ない中山間地にも高齢者などを集めるような取り組みはできないか。

(部会長) 高齢者を一箇所に集めるのではなく、それぞれの地域で各世代のバランスが取れた地域づくりが大切でないか。

計画書の表現について、中山間地域、水辺、海辺などを市民にわかりやす

くビジュアルに表現する工夫が必要である。

(委員) 表ばかりでなく、現状をピンポイントで表現する必要がある。

(部会長) 続いて、政策3コンパクトなまちづくりについて意見を伺いたい。

(委員) 143頁のDID人口の指標について、経年の変化を捉えた上でどうすべきか表現すべきである。

147頁の市民に期待する役割について、地域での便利な生活には、地域の商店の維持することが大切であり、このためには、市民が地元商店を振興し維持することへの取り組みが重要である。

(委員) 拠点づくりという意味で新たな住宅地を造って、そこに人を集めるのはいかがなことかと考える。従来からの地域を大切にすべきである。

(部会長) 人口についても、集中と分散のバランスが大切であり、富山市が進めているコンパクトなまちづくりは、新たに住宅地を創出するのではなく、既存の住宅地の利便性を高めることによって人口の回復を図っていく考えなので、委員の意見と同じ方向である。

(委員) 144頁の中心部の人口の推移について、市は何故中心部の人口が減っているのかについての調査が不足しているのではないかと考える。駐車場ばかりが増える現状の理由をよく調査し、どうすれば住宅が増えるかについて対応が必要である。

(委員) 中心部には多くの空き家があるため、その有効な活用策についての検討が必要でないか。133頁の取り組みに加えてはいかがか。

(部会長) 人口は減少に転じたが、世帯数はしばらく増加するので、その間に住宅政策を推進すべきである。

(委員) 総合行政センターの機能が低下している。本庁の判断にゆだねる場合が多く、処理に多くの時間を要している。

(委員) 各種計画の策定についても、総合行政センターの意見を聞いて進めてほしい。

(委員) 地域力を高めるためには、行政センター等の効果的に機能するよう行政システムの構築が重要である。

(部会長) 協働部会に行財政システムについての施策があるので、そちらで検討する。

続いて、政策4生活拠点をつなぐ交通体系の充実について意見を伺いたい。

(委員) 150頁の現状と課題の下から2行に記載してあるとおり、公共交通網の整備と一体的に道路網を整備することは重要であり、各項目においても一体的に取り組んでほしい。

(委員) 富山の公共交通は、利用料金が大変高く、このことが利用者数の減少に大きく影響していると考えられる。料金を抑えるような取り組みを展開できないか。

(委員) 150頁に乗客数の表があるが、乗客が減少している状況が把握できない。指標ともつながっていないので整理が必要でないか。

また、市民の役割の表現で、149頁は「事業所」とあるが151頁は「企業」といっており統一すべきでないか。

カーシェアリングの取り組みが必要でないか。

また、中心商店街の利用者に駐車券を配布しているが、公共交通の利用者に対しても対応すべきでないか。

(部会長) カーシェアリングについては、書き込めるか検討が必要である。

(事務局) 中心商店街では、駐車補助券や公共交通利用補助券を配布している。

(委員) 市域の70パーセントを占める森林の整備をしっかりと行ってほしい。県が新設する森林税の3億円程度の予算では森林整備は不可能である。

(部会長) 森林政策については、市では森林整備計画を策定中であり、その計画の中でしっかり対応がなされると考えている。

(委員) 団塊の世代の多くの退職者の森林整備への活用を大々的に行えないか。予算ではできないこともたくさんあり、そういう人の活用も重要でないか。

(委員) きんたろうクラブなどの活動があるが、ボランティア活動では根本的な森林問題の解決はできない。

(部会長) 森林整備に取り組む人の技術などでは、プロとアマの壁はあるだろうが、アマを排除するのはいけない。共通目的をもつよう市民意識を高めていくことが重要である。

- (委員) 目標数値の増加を目指して、単にハードの整備だけを進めるのではなく、使いやすさなどの根本的な面をしっかりと整えてほしい。
大和跡地をバスターミナルにし、人が集まりやすい環境を整えることや、中心部の学校跡地を自由空間として市場などとして誰もが自由に使えるようにするなど、人が人を呼ぶようなとりくみが重要でないか。
- (部会長) 人が人を呼ぶという意味では、ソフト面をしっかりと考えたハード整備が大切である。
- (委員) 中山間地域の豊かな自然をしっかりと守りながら、森林浴などに活用するような取り組みを進めてほしい。また、合併前の地域の要望も計画に反映してほしい。
- (委員) 広報紙で総合計画についての市民の意見を求めているが、計画内容をほとんど示していないので、もっと積極的に内容を公表し、意見を求めるべきである。
- (部会長) 市民から様々な意見を取り入れるよう、情報提供に工夫すべきである。
本日の意見のうち全体的に影響するものについては、協働部会に諮っていく。

4 閉会

(以上)